

稲作情報 No.13

水稻生育・斑点米カメムシ注意・大豆管理

水田農業レベルアップ委員会 技術普及推進部会〔作成：福井県農業試験場、福井米戦略課、JA福井県中央会〕

ハナエチゼンの現地の幼穂形成期は平年より3日早く、また高温下では出穂までの期間が短くなる傾向があり、出穂も平年より早くなる見込みです。早く移植したものは、既に出穂期となっている圃場もあります。早生品種以外の品種は、おおむね幼穂形成期を迎えています。斑点米カメムシ類の注意報が発令されています。水田内や周辺雑草地の斑点米カメムシ類の生息数は、平年および前年より多い状況です。

【水稻】

幼穂形成期となった品種は中干しをやめ、間断通水の水管理としましょう。また必要に応じて穂肥を実施しましょう。斑点米カメムシ類の多発を防ぐため、畦畔・麦跡等の雑草地の草刈りの徹底や、病害虫の防除を適期に行いましょう。麦収穫後の圃場で、ソバ等の後作がない場合は早々に耕起しましょう。

【大豆】

大豆の生育状況を確認し、2回目の培土（本葉5～6葉期）を実施しましょう。

○農業試験場の生育（7/10時点）



○麦跡の圃場管理



大麦収穫後の圃場を放置することは、鳥獣害被害も助長する恐れもあります。

○葉いもち病の発生



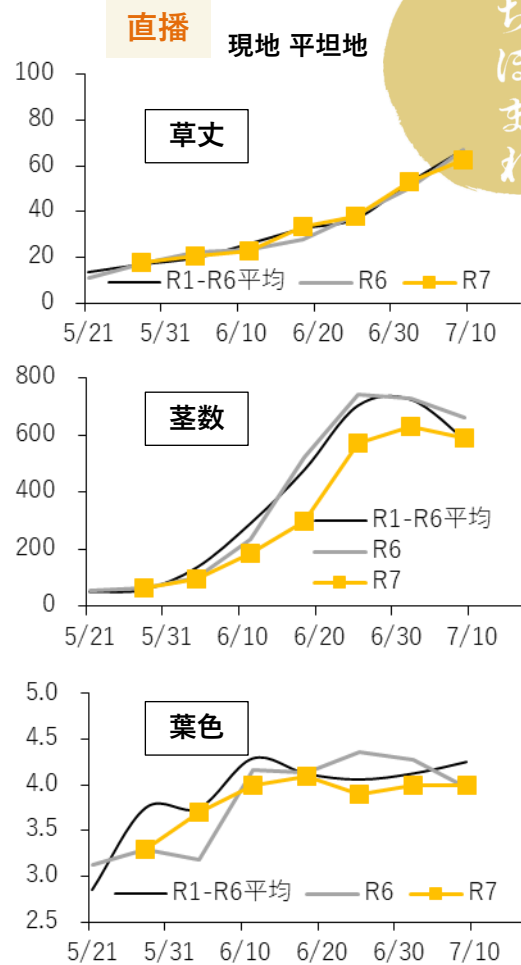
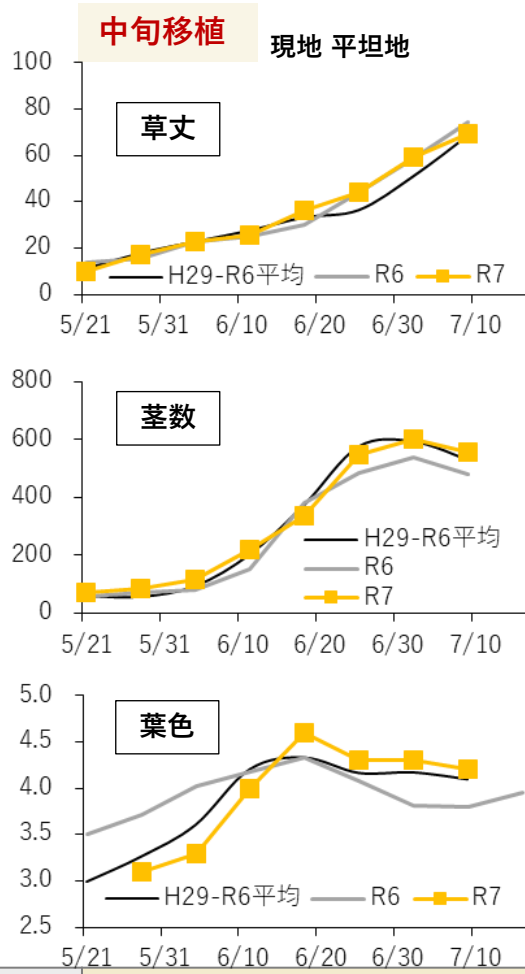
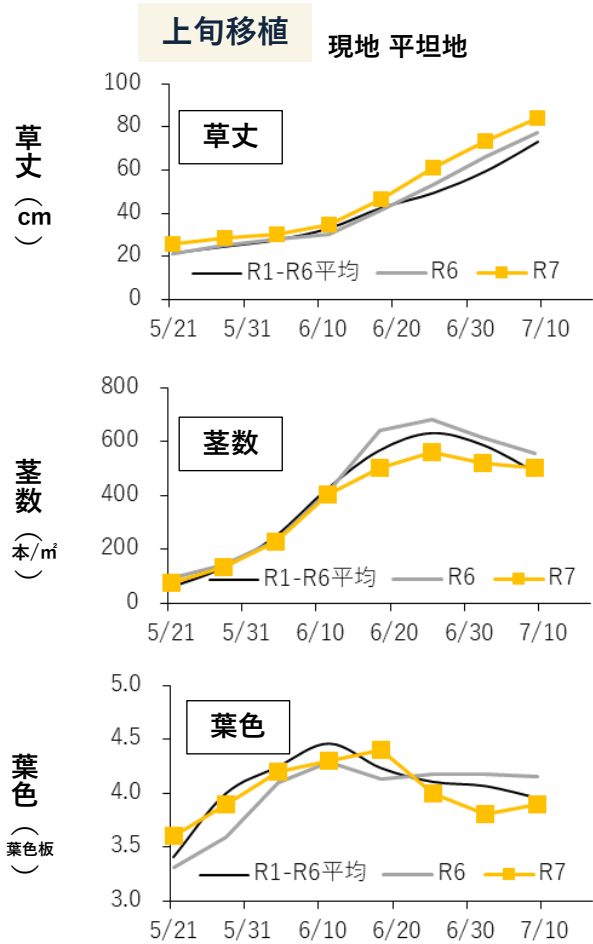
いもち病が出やすい天候ではありませんが、県内で、いもち病に比較的弱い品種を中心に、葉いもち病の発生が確認されています。発生を確認し次第、防除を実施してください。

○高温に伴う熱中症対策および農産物等の技術対策は下記を参照してください。

[高温に伴う熱中症対策および農作物等の技術対策 | 福井県ホームページ](#)

いちほまれ生育状況（令和7年7月9日調査）

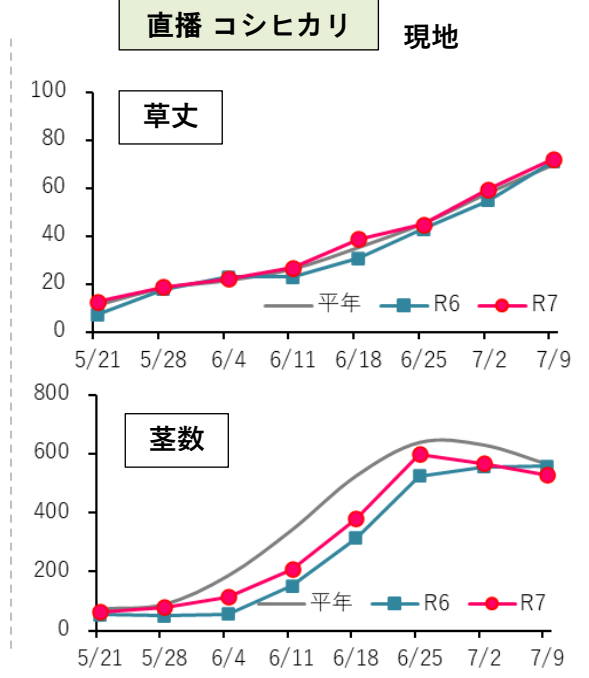
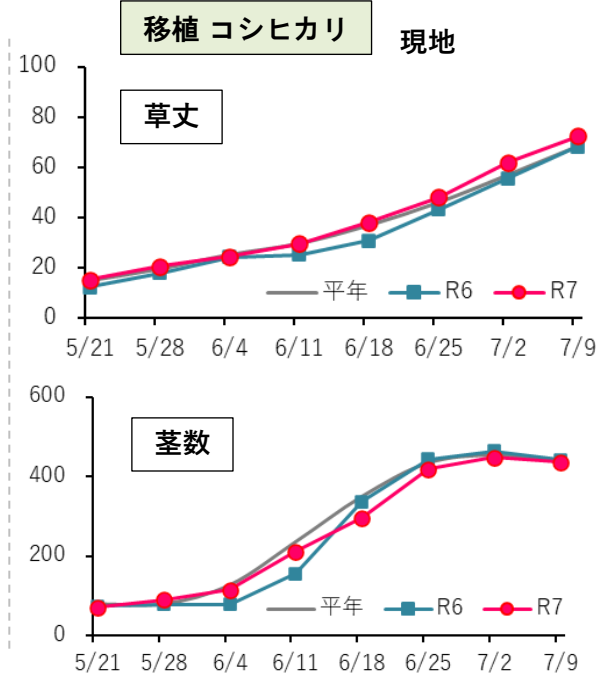
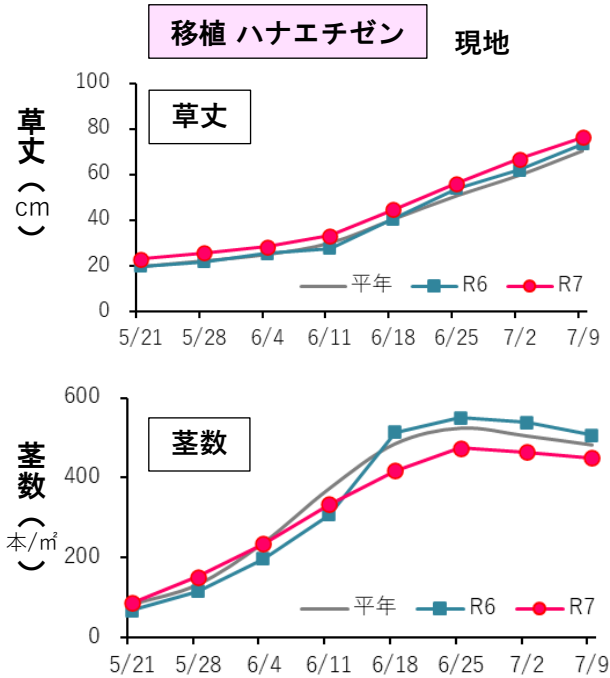
いちほまれ



	農業試験場		現地 平坦地			現地 中山間地	
栽培方法	上旬移植	中旬移植	上旬移植	中旬移植	直播	中旬移植	直播
時期	5/1	5/20	5/2	5/18	5/4	5/17	5/14
地点数	1	1	6	8	8	2	1
草丈 cm	85.3	71.0	83.9	69.2	62.6	68.9	61.8
茎数 本/mi	648	786	501	557	591	530	891
葉色 葉色板	3.9	3.9	3.9	4.2	4.0	4.1	4.3
幼穂形成期	7/9	-	7/5頃	-	-	-	-



ハナエチゼン・コシヒカリ・あきさかり 生育状況（令和7年7月9日調査）



品種		ハナエチゼン			コシヒカリ						あきさかり			
調査場所		農業試験場	JA坂井農場	現地	農業試験場	JA坂井農場		現地（慣行栽培）		現地（特別栽培）	農業試験場	JA坂井農場	現地	
栽培方法 移植・播種時期		移植 5/1	移植 5/1	移植 4/29	移植 5/20	移植 5/15	直播 5/7	移植 5/16	直播 5/3	直播 5/10	移植 5/1	移植 5/20	移植 5/15	移植 5/16
地点数		1	1	8	1	1	1	15	4	1	1	1	1	3
草丈 cm	本年	82.3	79.2	76.3	78.6	72.9	70.4	72.5	72.2	63.2	75.5	66.9	69.4	72.2
	平年	75.3	67.9	70.4	71.2	68.7	71.6	68.4	69.6	70.3	69.9	63.2	59.8	64.9
茎数 本/㎡	本年	591	564	450	684	466	624	436	529	473	721	801	586	579
	平年	541	405	484	484	409	509	439	565	549	618	550	432	480
葉色 葉色板	本年	4.9	4.8	4.5	4.3	4.6	4.4	4.0	4.1	3.2	4.2	4.5	4.2	4.2
	平年	4.7	-	4.4	4.0	3.9	4.0	4.0	4.1	3.9	4.4	4.3	4.2	4.6
幼穂 形成期	本年	6/24	6/25	6/24	-	-	-	7/7~	-	-	7/8	-	-	-
	平年	6/27	6/27	6/27	7/12	7/10	7/15	7/11	7/14	7/13	7/9	7/14	7/14	7/12

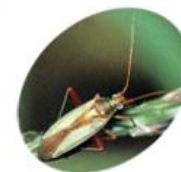
「斑点米カメムシ対策について」

現状(7月上旬時点)

- ・水田周辺雑草地内の斑点米カメムシの生息数 平年の約3倍、前年の約2.2倍
- ・出穂前の水田内の斑点米カメムシの生息数 平年の約2倍、前年の約1.3倍
- ・多く確認されているカメムシは、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ
- ・他県で問題となっているイネカメムシは、現時点では捕獲されていない。



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ

今後の対策

①薬剤による適期防除

「粉・液剤での防除」

- ・穂揃期～乳熟期(出穂3～5日後頃)と糊熟初期(出穂10～14日後頃)の**2回薬剤散布**を行う
- ・**農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う**

(留意点)

- ・斑点米カメムシ類は、日中あまり活動しないので、**夕方か早朝に薬剤散布**を行う
- ・カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、水田防除の際は畦畔も含めて防除する
- ・麦跡の雑草地では、斑点米カメムシ類が繁殖しているため、特に注意して防除を行う
- ・粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する
- ・薬剤の散布にあたっては、最新の農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する



②畦畔・麦跡地の雑草地の草刈り・圃場内の除草(特にヒエ・ホタルイ等のイネ科雑草)の徹底

(留意点)

- ・出穂期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので行わない(現在、出穂期前後のハナエチゼンの圃場周辺は注意)
- ・水田内のイネ科雑草が多い圃場では、出穂前からカメムシ類が圃場に侵入、繁殖するため、圃場内の除草を徹底する。
- ・後作にソバの播種を実施する場合は、圃場の排水性を確保するため、耕耘ではなく、モア等によって雑草を処理する。